

IMF サーベイ



追悼：

ワベル・アブダーラ氏（1953～2014年）を偲ぶ

2014年1月21日

IMFのアフガニスタン駐在代表だったワベル・アブダーラ氏が、1月17日にカブールで攻撃にあい死亡した（写真：IMF）

IMFのアフガニスタン駐在代表だったワベル・アブダーラ氏（60歳）が、1月17日（金）にカブールのレストランで攻撃にあい死亡した。IMFがこのような形でスタッフを亡くしたのは初めてのことである。

レバノン国籍でIMFでの勤続年数が20年を超える同氏は、5年間アフガニスタンの駐在代表を務めた。

アブダーラ氏を追悼しIMF全体が喪に服している。クリスティーヌ・ラガルド専務理事は「これは悲劇であり我々はみな悲嘆にくれている」と述べるとともに「国際公務員の真の精神を体現したアブダーラ氏は、その人生を他者を助けることに捧げ、アフガニスタンの再生に取り組む同国国民への支援に全力を尽くしていた」と付け加えた。

IMFの対アフガニスタン代表団のポール・ロス団長は「アブダーラ氏は、常に家族、同僚、そして自らが携わった国の人々のために尽力した素晴らしい心の優しい人だった」と述べた。

この攻撃でアブダーラ氏の他に20人が命を落とした。

多岐にわたるキャリア

1993年にIMFに加わったアブダーラ氏は、大半のエコノミストと同様に複数の局（中東中央アジア局、統計局、人事局）で活躍した後、2008年6月にアフガニスタン駐在代表に任命された。

IMFに加わる以前には、コロンビア大学の上級講師、国連レバノン代表団の経済顧問、そしてレバノン中央銀行総裁の経済顧問を務めるなど、その経験は豊富かつ多岐にわたっていた。

経済学を学び 1978 年にパリ第 1 大学から最初の学位、そして 1981 年にロンドン・スクール・オブ・エコノミクスから修士号を取得。その後、1985 年にコロンビア大学から経済学で修士号を取得し、1993 年には同大学の PhD 取得候補となる。

アフガニスタンで

IMF のアフガニスタン駐在代表としてアブダーラ氏は、同国政府関係者と密接かつ生産的な関係を構築、経済政策に関する助言を行い技術支援の調整にあたった。また、他のドナーや市民社会、メディアの代表とも交流を持った。経済状況を把握するとともに、当局やドナーの見解、懸念そして政治経済的考察を深く理解していたことから、同氏は同国の経済に関心のある同国及び国際的關係者からの信頼を得ていた。

IMF 中東中央アジア局のアドナン・マザレイ副局長は「アブダーラ氏は、IMF のアフガニスタン関連業務に多大な貢献をした。政府との信頼関係の構築で同氏は卓越した手腕を発揮していた」と述べた。

アフガニスタン中央銀行のデラワリ総裁は、「アブダーラ氏は、IMF とアフガニスタンの関係に大きく貢献した有能な IMF のアフガニスタン駐在代表であり、私の極めて親しい友人でもあった」と述べた。

ロス氏は、同氏は暖かい寛容の心を持っており「それゆえに彼は信頼されその言葉には説得力があった。また、そのユーモアのセンスで、問題を非直接的かつエレガントに指摘することができた」と述べた。加えて、英語、フランス語、アラビア語にも長けていた。「その全てが彼の優れた能力を築き上げ、出会った人全てと信頼関係を結ぶことができた」

アブダール氏の訃報に対する同僚のコメント

アブダール氏の訃報は IMF スタッフに大きな悲しみと衝撃を与えた。以下でコメントを紹介する。

IMF の元職員で現在コロンビア大学・マギル大学で活躍しているブレット・ハウス氏：「アブダール氏との最初の出会いは、私の IMF パネルインタビューでのことだった。インタビューは厳しく困難を極め、うまく行ったかどうか皆目見当がつかなかった。アブダール氏に連れられインタビューを後にし事務的手続きを行っているときにパネリストに背を向けたアブダール氏は、親指を立て笑った。私はこれで安堵したわけだが極めて愛嬌がある彼の仕草に魅了された」

IMF 中東中央アジア局でアシスタントを務めるカーリーナ・クライブ：「どのような時でも、ユーモアと暖かい仲間意識に溢れていた」

IMF 欧州局・顧問カトリオーナ・パーフィールド：「アブダール氏が私を雇ってくれた。彼がいなければ現在の私は存在しない。彼のおかげで私の人生は変わった」

アブダール氏は経済学でキャリアを構築したが、驚くべき才能を発揮しステップ・エアロビクスのインストラクターの資格も有しており、IMF のフィットネスセンターやカブールをはじめ各地でクラスを持った。趣味は料理と音楽で、友人との食事を楽しみ家族をこよなく愛していた。

IMF コミュニケーション局ニスリーン・ファーラン課長補佐：「ミッションで問題に突き当たると、アブダール氏はいつもポップスを歌ったり歌詞を引用していた。

『Don't worry, be happy now』と常に言い、夜遅くにはデュランデュランの歌を口ずさむなど、ポップスでミッションのチームの気分をほぐしていた」

IMF の南アフリカ上級駐在代表のアクセル・シンメルフェニヒ氏は、アブダール氏のエアロビクスのクラスのことを思い出していた。「親愛なるワベル、私にはリズム感がないと教えてくれたが、カブールでのステップ・エアロビクスのあなたのクラスのことを思い出す。友人や仲間への献身を懐かしく思う。友人や同僚との楽しい食事の席にあなたがいなことを寂しく思う。ご冥福をお祈りする。決して我々はあなたのことを忘れない」

アブダール氏は、母、妻、娘と兄を残して亡くなった。

関連リンク：

[ラガルド専務理事の声明](#)

[IMF とアフガニスタン](#)

[IMF カブール事務所](#)